



プレスリリース

日本の個人投資家は株式市場に対して楽観的な見方だが

保守的な姿勢と“内向き”投資が顕著

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツによる

「世界投資家センチメント調査」結果発表

【2014年3月26日】米国に本社を置く独立系運用会社フランクリン・テンプレトン・インベストメンツは世界の個人投資家意識に関する調査結果を発表しました。同調査は日本を含む世界22カ国で11,000人以上の個人投資家を対象に実施されました。

検査結果ハイライト

- 日本の個人投資家は日本の株式市場に対して楽観的な見方を持ち、世界の株式市場の中で日本が今年最も有望と回答。海外の個人投資家の大半は自国以外の株式市場が最も有望だと見ている一方、日本の個人投資家はホームバイアスが強い傾向が明らかに
- 市場見通しは楽観的だが投資戦略については、半数以上の日本の個人投資家が昨年同様、今年もより保守的な投資戦略をとると回答
- NISA(少額投資非課税制度)口座で投資してみたい商品の特性について、6割の日本の個人投資家が「キャピタルゲインに対する非課税を活用するために値下がりしにくい商品を好む」と回答
- 日本の個人投資家は今年及び今後10年で最も有望な上位3資産は株式、外貨、不動産と予想。外貨が上位に来る国は他にはなく、日本の個人投資家の中長期的な円安見通しを反映

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社の代表取締役社長である小口龍也は、これらの調査結果について以下のように述べています。「世界22カ国・地域11,000人以上の個人投資家を対象にした大規模な調査は、日本および海外の個人投資家の考え方や行動を理解する上で貴重な情報源となります。海外に比べて日本の個人投資家はホームバイアスが強い“内向き”投資の傾向が見られる一方で、円安トレンドの影響もあり海外市場への投資の必要性も認識していると思われる。また、インフレ期待を背景に不動産投資へ意欲も高まっているようです。ただ、日本の個人投資家は楽観的な市場見通しを持っていても慎重な投資姿勢を変えておらず、NISAを利用した投資においても高分配より値下がりしにくい商品を好む傾向が見えます。これらの結果を見ると、今後は分散投資、長期投資、トータルリターンを重視する運用商品が選好されるようになると考えられます。」

調査結果の詳しい結果は下記URL、もしくは別紙参考資料をご参照ください。

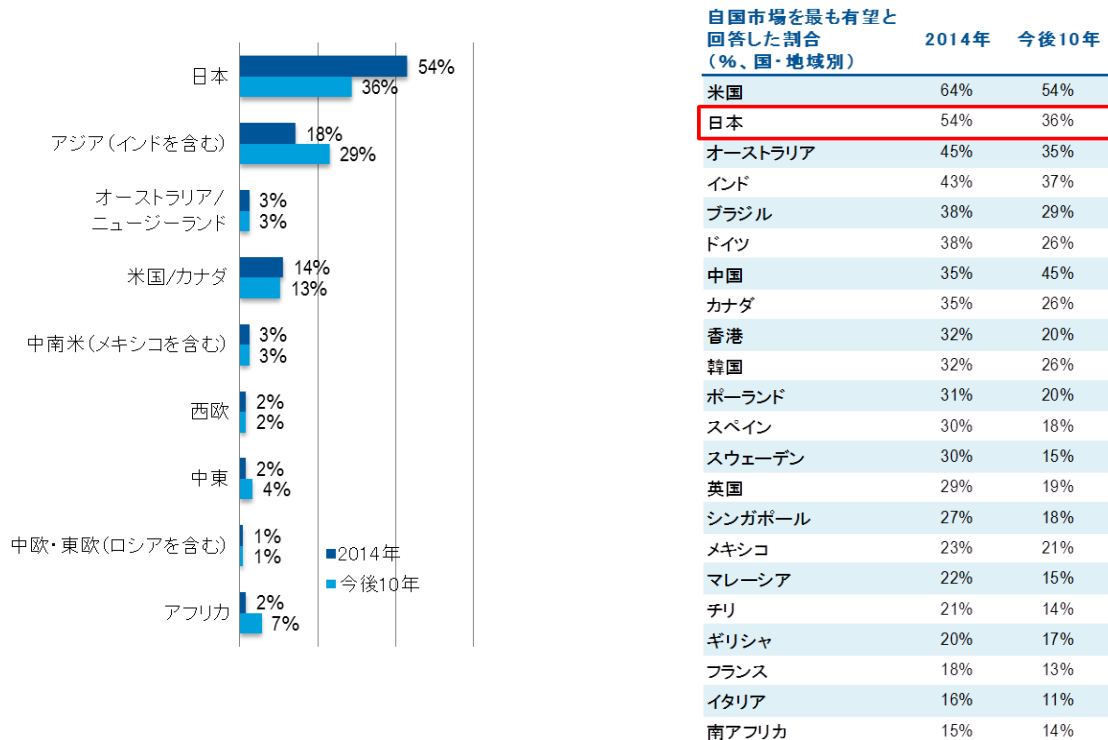
http://www.franklintempleton.co.jp/ja_JP/investor/campaigns/giss/global-investor-survey2014?nicamp=GISS_Japan&nichn=PR&nioprseg=Creative

報道関連・ご取材等についてお問い合わせ

フランクリン・テンプレトン・インベストメンツ株式会社広報代理 (ウェーバー・シャンドウィック) 今泉 有理/佐藤 真朋 TEL:03-5427-7412/7392 FAX:03-5427-7311

2014年および今後10年においてもっとも有望な株式市場を自国だと思う割合

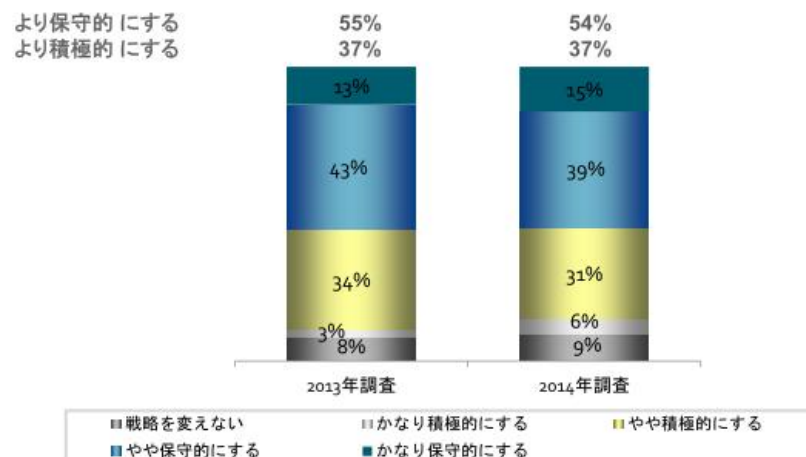
日本の個人投資家は「今年」と「今後10年」の双方で日本が最も有望な株式市場だと考えています。今年自国の株式市場が最も有望と考える割合は米国の個人投資家に次ぐ多さでした。



一方、海外の個人投資家の3分の2は自国以外の市場が最も有望と回答していることに比べ、日本の個人投資家のホームバイアスの強さが伺えます。尚、昨年と比べた場合、アジア全体、またオーストラリア・ニュージーランド、中南米でホームバイアスが弱まっています。

2014年の投資戦略の変更について

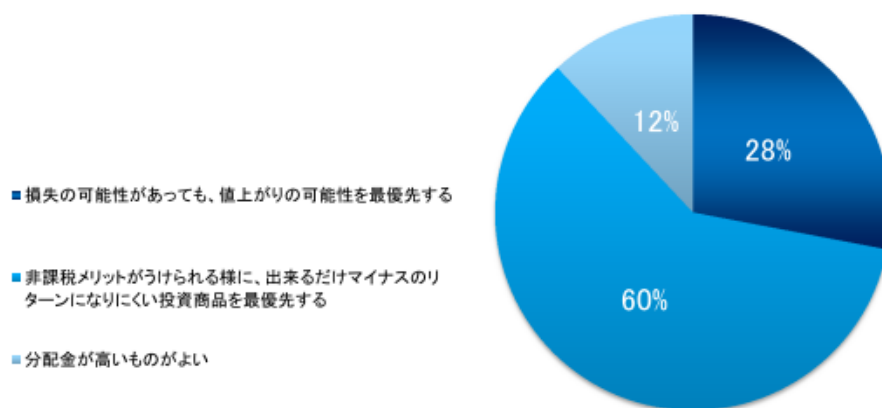
日本の個人投資家は市場の見通しは楽観的だが投資戦略については、半数以上（54%）が昨年同様、今年もより保守的な投資戦略をとると回答しています。



この傾向は海外の個人投資家も同様で、特に中南米の個人投資家は昨年にくらべより保守的な戦略をとると回答しています。逆に欧州の投資家で更に保守的になると答えた個人投資家は約10パーセントポイント減少しています。

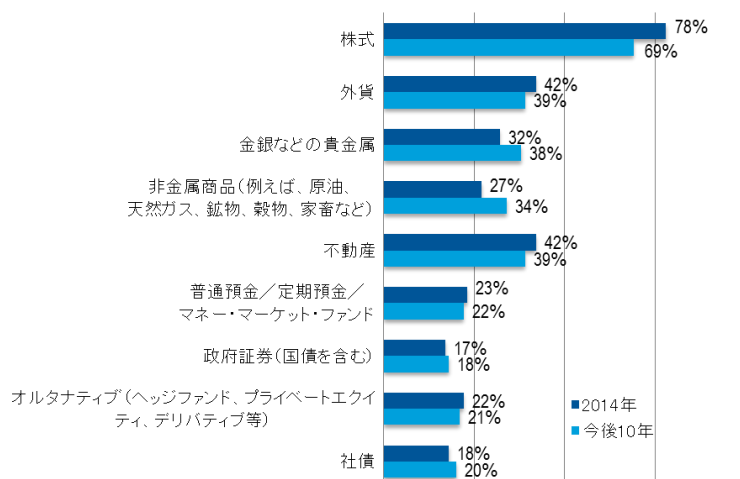
NISA 口座で投資してみたい商品の特性

日本の個人投資家はキャピタルゲインに対する非課税を活用するために値下がりしにくい商品を好む傾向が顕著に見られます。具体的には、6割の日本の個人投資家は「キャピタルゲインに対する非課税を活用するために値下がりしにくい商品を好む」と回答。その割合は「損失の可能性があっても値上がりの可能性を最優先する」と答えた個人投資家の約2倍です。昨年は高分配を好む傾向が見られましたが、NISA 口座の導入により、短期的なりターンではなく、投資元本の毀損を抑えトータルリターンを重視する傾向が見られます。



2014年と今後10年に最も有望視している資産について

昨年と同様、日本の個人投資家は「今年」および「今後10年」で最も有望な上位3資産は株式、外貨、不動産だと予想しています。また、株式と不動産を有望な資産とみる個人投資家の割合は昨年より増加しています。海外の個人投資家も株式と不動産を上位2資産として予想していますが、3位は貴金属だと見えています。



調査方法

当調査は、ORC インターナショナル社によって実施され、以下の 22 カ国・地域の個人投資家 11,113 人を調査対象としました。調査対象国・地域は北米（米国、カナダ）、ラテンアメリカ（ブラジル、チリ、メキシコ）、アジア太平洋（オーストラリア、中国、香港、インド、日本、マレーシア、韓国、シンガポール）、欧州・アフリカ（フランス、ドイツ、ギリシャ、イタリア、ポーランド、スペイン、スウェーデン、英国、南アフリカ）。回答者の年齢層は 25 歳から 65 歳としました（欧米諸国については、25 歳以上となっています）。投資経験のある方からの回答を得るため、調査対象国・地域ごとに不動産以外の投資金額および投資可能な資産の最低額を設定しました。当調査はすべての調査対象国・地域において、2014 年 1 月 2 日から 1 月 15 日までに実施されました。

フランクリン テンプルトン インベストメンツについて

フランクリン テンプルトン インベストメンツは、グローバルにビジネスを展開する独立系の資産運用会社グループです。世界 30 カ国以上に拠点を有し、150 カ国以上の個人投資家や機関投資家の皆様に多種多様な運用商品と質の高いサービスを提供しております。

日本法人であるフランクリン・テンプレートン・インベストメンツ株式会社は、1997 年に投資一任業務の認可を受け、2001 年には投資信託委託業務を開始し、ご投資家の皆様の資産運用ニーズに応じた運用商品やサービスを提供することにより業務の拡大を図ってまいりました。

フランクリン テンプルトン インベストメンツが 65 年以上に亘るグローバルな資産運用業務の中で培ったノウハウを活用し、日本のご投資家の皆様の中長期的な資産形成に貢献することを目指すとともに、今後もお客様との長期的な信頼関係を築いてまいります。詳細はウェブサイトをご覧ください。http://www.franklintempleton.co.jp/ja_JP/investor/home

###

重要なお知らせ

当資料は、フランクリン・テンプレートン・インベストメンツ株式会社が「投資家の意識調査の結果」についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定のファンドの投資勧誘資料ではありません。当資料は、信頼できると判断する情報に基づいて作成されていますが、フランクリン・テンプレートン・インベストメンツ株式会社はその情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、当資料作成日現在のものであり、予告なく変更される場合があります。当資料の内容についての著作権はフランクリン・テンプレートン・インベストメンツ株式会社に帰属します。著作権法により、電子的方法または機械的方法を問わず、いかなる目的であれ、無断複製、引用、転載または転送等を行うことはできません。

© 2014 Franklin Resources, Inc. All rights reserved.